

水苔で作る顔付き苔玉「こけっぴ」作り

作成者：緑花星 主宰 代表 石戸 明一

■ 実施主体

名 称：緑花星

担当窓口：石戸 明一

所 在 地：埼玉県川口市鳩ヶ谷本町

H P：http://ryokukasei.com/

■ 取組地域 主に関東エリア（東京都・埼玉県・神奈川県・千葉県等）



■ 概要

水苔を使って、顔付き苔玉「こけっぴ」を作る。

土を使用せず、水耕栽培の技術を使って作るため、室内でも楽しみやすい。小さい子どもから親子教室、小学校の授業と幅広い場で実践が可能で、誰でも簡単に作ることができる。

■ 指導の内容と目的

- ・ 苔玉の球体の形状を生かした顔付きの苔玉を作り、植物に対する愛着や優しい心を育む。
- ・ 顔を付ける事により、自分が親になった気持ちで愛情を持って育てることができる。
- ・ 植物の日々の成長を楽しみながら観察できる。
- ・ 工作用モールで、好きな顔や好きな表現ができ、創作意欲も育む。
- ・ 作った苔玉を、友達の誕生日や母の日等の行事にプレゼントして感謝を伝える。
- ・ 苔玉作りを通じて、植物にも関心を持ち日本の伝統文化の一つである「盆栽」にも興味を持ってもらいたい。

■ 対象者への配慮

- ・ 必要な資材は一人分ずつ用意する。
(例えば、木綿糸は共通で使うことをせず、必要な長さを切り分けておくなど)
- ・ 園芸用の手袋は使用せず、素手で丸めたりして水苔の触感を楽しむ。
(手にケガがある人や肌の弱い人を除く)
- ・ 手の小さい小学生は、水苔を丸めて糸を巻く作業が大変な時もある。
その場合は、作業途中で少し手伝うようにする。
- ・ 気持ちを込めて作るよう「皆さんのカワイイ『こけっぴ』を作りましょう。愛情をもって作ってくださいね」等の声かけをする。
- ・ ハサミは先端の丸いものを使い、刃物の扱いに注意をし、ケガをしない様に気を配る。
- ・ 道具の後片付けや、ゴミの分別なども最後まで指導する。

【取り組み内容】

- 対象者・人数：小学校中学年以上（3年生～）5～40名
- 所要時間：45分
- 指導者：指導者1名、アシスタント1名

<顔付き苔玉「こけっぴ」づくり>

■ 資材

- ・ 木綿糸 10m（薄茶色系か白色）
- ・ 工作用モール 長さ約20cmの3本（数色）
- ・ バケツやボール 1リットル位の水が溜められる物（人数分無ければ、生徒各自で持参）
- ・ 割りばし 1本（先端が細いタイプ）
- ・ 新聞紙 机やテーブルに敷く
- ・ ハサミ
- ・ 掃除用具 雑巾・ほうき・ちり取り・ゴミ袋

■ 植物

- ・ 水苔（乾燥） 12g（直径約8cmの苔玉ができる）
- ・ タマリユウ 3株程 ※その他、殆どの観葉植物で栽培可能。

苔玉で使う材料は4品
（タマリユウ・水苔・モール・木綿糸）



工具・備品類
（バケツ・割りばし・ハサミ）



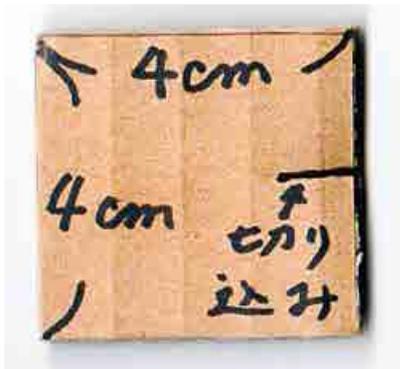
1. 事前の準備

■ 事前の作業

- ・ 水苔 12g (直径約8cmの苔玉ができる)
乾いた状態の水苔を、電子計りを使い12gずつ袋に小分けにする。



- ・ 木綿糸を10mずつに切り分ける。
段ボール紙を4cm×4cmに切り、一遍の真ん中に切り込みを入れておく。
糸を110回転して(10mになる)段ボール紙に巻き付けて、糸の最後を切り込みに挟んで止める。



- ・ タマリユウを根洗いする。
ビニールポットからタマリユウを抜き取り、水で土を洗い取り除く。
根が長ければ根元から4cm程残して切る。
使用日まで根が乾かない様に、濡れた新聞紙で根の部分を保んでおく。



タマリユウのポット苗



水で根洗いする



根を4cm程残して切る



濡れた新聞紙で
包んでおく

2. 当日の流れ

全体の時間：（所要時間）45分（13：00～13：45など）

参加人数：5～40名

■ 説明する内容

・ 苔玉について

日本の伝統文化の一つに「盆栽」がある。

その盆栽の樹形や観賞の仕方の一つに「苔玉」というものがある。

・ 水苔について

日本では国定公園や国立公園等の湿地帯に生息している事が多く、保護植物になっている。

通常は外国産の乾燥水苔を水で戻して、蘭やその他の植物の植え込み材料として使われている。

・ タマリユウについて

ジャノヒゲ属

原産地は日本・中国・朝鮮半島

冬でも枯れない常緑性の多年草で秋には紫色の実が付く。

直射日光を好み繁殖力が強い。

・ 水耕栽培について

土を使わずに、成長に必要な養分を溶かした水と光だけで、植物を光合成をさせて育てる栽培方法。

■ 具体的な手順・作業ポイント

① 講師・アシスタント挨拶

苔玉・水苔・タマリユウの説明。

② 水苔を、水を溜めた容器（ボールなど）に入れる。

水苔を水で戻す時には、水苔の中に小枝や枯れ葉が入っているので、指に刺さらない様に取り除き、強く握らずにゆっくりともみほぐす。

③ 十分に水を含み、小枝や枯れ葉が無くなったら

水苔を強めにゆっくり握り、水苔の繊維を柔らかくしていく。

水苔は切らなように揉むようにする。

戻し具合は、水面に水苔の紐状の形が分からなくなるのが目安。



注意：

写真左：×柔らかくしないと、丸めた時にゴワゴワした見栄えの悪い球体になる。

写真右：○よく柔らかくすると、丸めた時に滑らかなきれいな球体になる。



④両手でシュークリームを包む感じで優しくコケを取り、柔らかく握る感じで丸い形状にしていく。水を絞らないで、そのまま水がたれたまま丸めるのがコツ。

水を絞るとまとまらず、綺麗な球体が出来なくなる。

手が小さく、水苔を丸めて糸を巻く作業が大変な時は、作業途中で少し手伝うようにする。

バケツに残ってる水苔は、残さず全部すくい取るようにする。



⑤木綿糸の先端を左手の親指ではさんで留めて、糸を球体に巻き始める。

玉の形状を保ちながら、万遍なく巻く（10メートルを使い切る）

木綿糸は張り過ぎず、ゆる過ぎずがコツ（糸が軽く水苔が食い込む程度の圧力）

（張りすぎると苔玉が小さくなってしまい、ゆる過ぎると糸がたるんでしまう）

木綿糸の最後は、そのまま水苔に巻きつけて終わり。（糸の終わりは結ばない）



注意：

同じ所ばかり巻いていると、同じ個所に
圧がかかり、ハンバーグみたいにつぶれてしまう。

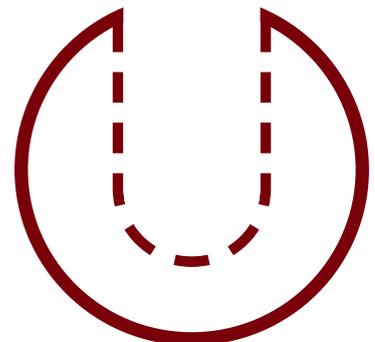


⑥糸が巻き終わったら綺麗な球体になるように形を
整える。



⑦苔玉の上から指を入れて、穴を開ける。

両指が2本入る位の穴を開ける。（穴が小さいとタマリユウの根が植えられない）
下に突き抜ける手前辺りまで深く開ける。

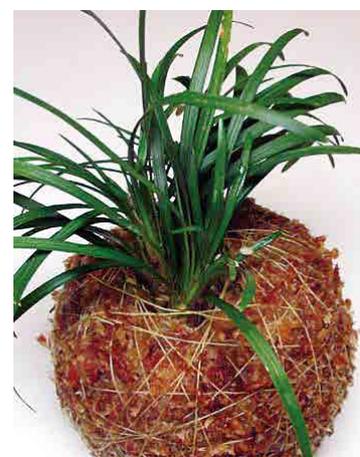


苔玉を横から見た図指二本
入るくらいの穴をあける

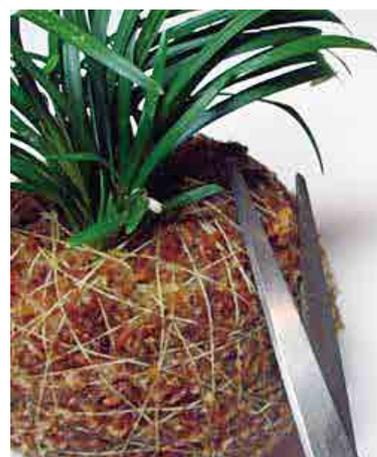
⑧タマリユウを穴の中に植え込む。

タマリユウの根の先端を細く束ねて、糸にひっかけないように奥まで植え込む。

入れたら、おにぎりを握る感じで穴をふさぎ、形を整える。

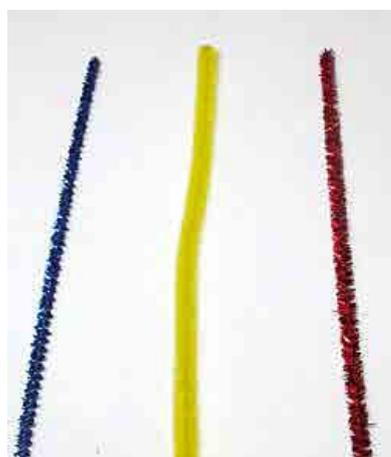


⑨突起している部分の水苔をハサミで切って全体的に丸く滑らかにする。



⑩苔玉の正面を決めて、モールを使って顔を作り付ける。

モールは、適当な長さに切り、好きな形を作った後、苔玉に差し込む為の爪をモールの先を1cmほど折り曲げる。



⑪好きな顔を作り、余ったモールで手や飾り等好きな形にして付けて完成。

苔玉に、割りばしをネジ込む様に2cm程の下穴を開ける。穴を開けておかないとモールを差し込めない。



所要時間や配分

- 開始60分前 ①集合・学校の主催者への挨拶・打ち合わせ
会場準備（床・机面養生・材料運び込み・配布、水の用意）
- 5分（5分） ②児童集合・挨拶（講師・アシスタント自己紹介）
材料、苗の説明
- ↓
- 35分（30分） ③作品作り
・水苔の水戻し
・球体に丸める
・糸を巻く
・植物を植える
・顔を付けて完成
- ↓
- 45分（10分） ④後片付け・管理方法説明

■ 作品観賞方法 長く楽しむための管理方法説明

・飾り方

お好きな形や色の受皿の上に置いて管理・観賞する。

顔付きなので、名前を付けて愛情を注いで楽しむ。

・置き場所

部屋の中の間接光が当たり、風通しが良い場所に置く。

・水やり

苔玉が半乾きになったら、バケツに水を溜め、苔玉の部分だけ1分程水に浸す。

※注意

部屋の温度や日当たりにより乾き方が違うので、苔玉の表面を触って水分量を確認する。

・肥料

水と光だけで十分育つ植物なので、肥料は必要なし。

・害虫対策

外部から侵入してきた虫が苔玉に住み着く事があるので、定期的に殺虫殺菌剤を散布した方が良い。

・剪定

タマリユウの葉が伸び過ぎた時は根元近くから葉を切って間引く。

又、枯れた葉はその都度ハサミで切る。

3ヶ月位経つと苔玉の下に根が回ってくるので、伸びすぎた根は切っても構わない。

・観察

日々の観察の中で、気付いた点をメモしたり、変化してきた植物を写真に撮影したり、スケッチしたりして成長記録を付ける。

※さまざまな植物を使って「こけっぴ」を作ることができる。



多肉植物で作るこけっぴ



テーブルヤシのこけっぴ

■ 児童・生徒に関心を持ってもらえるように工夫している点

- ・自分の誕生日の花や花言葉を知ること、花や植物に興味を持つきっかけにしていきたい。
- ・自分で作る事によって愛着を感じてもらう。
- ・植物には、さまざまな色合いがある、珍しい色の花や植物を紹介することで興味を持ってもらう。
- ・身近な野菜や果物をの花を題材にした話やクイズを出題して、植物にも関心をもってもらおう。

■ 経費

- ・1人当たり500円程度（使用する植物や顔のパーツなどにより金額は変わる）

■ 参加者からの感想（保護者）

- ・顔付きなので自分の子供や友達の様子が可愛がってくれる。
- ・植物の変化の気づき分かる様になった。
- ・他の園芸にも興味を持つようになった。
- ・将来お花屋さんになりたいと子供が言っていた。

■ 今後の課題やその改善方法

- ・教室で教えた事を家でも実践できる資料や園芸キットを作りたい。
- ・子供の小さな手でも一人でできる作品を考案したい。
- ・特別な材料を使わずに誰でも簡単に購入して作れるマニュアルを作成。
- ・花育を身近に生活や学校で取り入れる為の活動を増やす。